

地域保健

11

2018

●特集

高齢化するひきこもり





《表紙イラスト》
山本まもる

●
パパ緑のところが
どんどん赤くなっ
てる！わー私も見
たい！

6

【特集】

高齢化するひきこもり

- 12 ひきこもりの現状と課題 斎藤 環 (筑波大学大学院)
- 16 ひきこもりにおける 8050 問題 川北 稔 (愛知教育大学)
- 20 ひきこもりの支援で保健師に求められること 目良宣子 (山陽学園大学)
- 26 ひきこもりの評価尺度 sSOFAS の活用 目良宣子 (山陽学園大学)
- 30 親の会として保健師に期待すること
田口ゆりえ (特定非営利活動法人 KHJ 全国ひきこもり家族会連合会)
- 36 4 つの事業で長期化・重症化を予防 一岐阜県ひきこもり地域支援センターの取り組み
安田照美 (岐阜県精神保健福祉センター)
- 42 民間支援団体と行政がチームとして支援 一京都府のひきこもり支援の取り組み
金森正明 (京都府脱ひきこもり支援センター)
- 47 「ひきこもり家族教室」で息の長い支援を 一東京都板橋区の取り組み
義本伸子 (板橋区保健所)、柿爪菜南 (同)
- 52 人口7万人の基礎自治体が独自に開設した総社市ひきこもり支援セン
ター「ワンタッチ」
中井俊雄 (社会福祉法人 総社市社会福祉協議会)
- 57 地域の人と自然に交流できる場づくり 菊池まゆみ (社会福祉法人 藤里町社会福祉協議会)

② ひよこ、ホップ、ステップ、ジャンプ！▶ 大谷 福さん (大船渡市生活福祉部 健康推進課)

⑥ ピープル ▶ 織田友理子さん (NPO 法人 PADM (遠位型ミオパチー患者会) 代表、一般社団法人 WheelLog 代表理事、車椅子ウォーカー代表)

⑥8 報 告 ▶ 学生の授業として実施する住民向け「健康づくり事業」の取り組み
渡會睦子 (東京医療保健大学医療保健学部看護学科地域看護学領域) ほか

⑦3 レポート ▶ 胎児性アルコールスペクトラム障害の予防と対策に関する国際フォーラム

⑨0 情報 B O X

⑨6 次号予告／奥付

連 載

⑥2 子どもの脳を守る 《第4回》／友田明美

⑥4 折れない心〜レジリエンスの高い人、低い人
《第4回》／諸富祥彦

⑥6 ESSAY 国際保健《第28回》／松田正己

⑦8 事業脳から脱却しよう！《第4回》／佐々木亮平、岩室紳也

⑧2 保健師のための閑話ケア《第79回》／藤本裕明

⑧6 中臣さんの環境衛生ウォッチング《第64回》／中臣昌広

※「『その子らしさ』を伸ばす〜発達凸凹に寄り添う〜」は休載となります。

ひよこ

ホップ★ステップ★ジャンプ!



生活習慣病が悪化する前になんとかしたい！
予防こそ、保健師の強みであり魅力

大谷 福

さん

● 大船渡市生活福祉部 健康推進課

おたに・ふく



平成30年3月に竣工した防災観光交流センターの前で

文：編集部 写真：神保 誠

織田友理子さん

●NPO法人PADM（遠位型ミオパチー患者会）代表
一般社団法人Wheelog 代表理事
車椅子ユーザー代表

望みは捨てない！ 遠位型ミオパチー患者会活動の10年とこれからを語る

22歳のときに、「遠位型ミオパチー」という進行性の筋疾患と診断された織田友理子さん。希少疾病を抱えながら、NPO法人PADM（遠位型ミオパチー患者会）代表、バリアフリー情報動画「車椅子ユーザー」の配信、「Wheelog」みんなで作るバリアフリーマップ』の開発、国内外での講演など日々精力的に活動している。そのエネルギーのソースと社会への希望や期待について話していただいた。

●聞き手……白井美樹（ライター）

— 遠位型ミオパチーとは、どのような疾患ですか？ また、織田さんが発症された経緯は？

織田 手足の筋肉から萎縮が始まり、徐々に進行して歩くことも立ち上がることもできなくなります。やがては、寝たきりになるのを覚悟しなくてはならない難病です。私の場合は、20歳ころから足元がおぼつかない、階段を駆け上がれない、走れないといった症状が現れ始めました。しばらくは、騙し騙し生活していましたが、22歳のときに検査を受け、この病気だと診断され

たのです。

— かなりの希少疾病だそうですね。

織田 同病者は国内に数百人しかいません。私が診断されたときには、あまりにも希少なので、主治医から「同病者と出会うことはないでしょう」と言われたほどです。ある日、主治医から「早く結婚しないと、将来出産が難しくなるよ」とアドバイスを受けました。当時、私は大学時代に出会った彼（現在の夫・洋一さん）がいて、25歳で結婚し、1年後に息子を出産しました。

— 患者会の活動をするようになったきっかけは？

織田 インターネットのブログなどを通じて同病の方たちと知り合い、自分たちに何かできることはないだろうかという話になりました。そして、2008（平成20）年に「PADM（遠位型ミオパチー患者会）」が発足し、私も運営委員として携わるようになりました。

この病気は治療法や治療薬がなくて、ただ進行するだけと言われていましたが、あるとき日本で研究を進めていたグループ

高齢化する ひきこもり

ひきこもりの平均年齢は年々上昇している。初発年齢の上昇や若いころにひきこもった人の高齢化に加え、離職後に再就職できない人たちが増え、新たな層となっているからだ。年金生活を送る高齢の親が50歳を超えた当事者の面倒をみるなど、将来の見通しが立たないケースも増えている。一方で、ひきこもり地域支援センターの設置をはじめ、自立に向けた支援制度の創設、地域での居場所づくりなど、行政の施策や親の会などの民間団体による支援環境が整いつつある。長期にわたるほど社会復帰が難しくなるひきこもりは早期発見・早期支援が求められる。適切な支援を始めるには、保健師などの専門職によるアセスメントがポイントだ。

今月号では、高齢化が進むひきこもりについて、現状と課題、脱出に向けた各地の取り組みをまとめるとともに、保健師が担うべき役割について触れる。



-
- P12** ひきこもりの現状と課題
◎斎藤 環 (筑波大学大学院)
-
- P16** ひきこもりにおける 8050 問題
◎川北 稔 (愛知教育大学)
-
- P20** ひきこもりの支援で保健師に求められること
◎目良宣子 (山陽学園大学)
-
- P26** ひきこもりの評価尺度 sSOFAS の活用
◎目良宣子 (山陽学園大学)
-
- P30** 親の会として保健師に期待すること
◎田口ゆりえ (特定非営利活動法人 KHJ 全国ひきこもり家族会連合会)
-
- P36** 4つの事業で長期化・重症化を予防
—岐阜県ひきこもり地域支援センターの取り組み
◎安田照美 (岐阜県精神保健福祉センター)
-
- P42** 民間支援団体と行政がチームとして支援
—京都府のひきこもり支援の取り組み
◎金森正明 (京都府脱ひきこもり支援センター)
-
- P47** 「ひきこもり家族教室」で息の長い支援を
—東京都板橋区の取り組み
◎義本伸子 (板橋区保健所)、柿爪茉南 (同)
-
- P52** 人口7万人の基礎自治体が独自に開設した総社市
ひきこもり支援センター「ワンタッチ」
◎中井俊雄 (社会福祉法人 総社市社会福祉協議会)
-
- P57** 地域の人と自然に交流できる場づくり
◎菊池まゆみ (社会福祉法人 藤里町社会福祉協議会)
-

特集

刑務所と地域との連携 保健師は健康課題を担えるか
～女性受刑者の問題を中心に～

●鼎談 更生支援に求められる保健・福祉の視点

〈出席者〉 堂本暁子さん（女子刑務所のあり方研究委員会委員長、元千葉県知事）
村木厚子さん（津田塾大学客員教授、元厚生労働事務次官）
名執雅子さん（法務省矯正局長）

●総論 社会を映す女子刑務所～求められる司法と地域の連携～

堂本暁子（女子刑務所のあり方研究委員会委員長、元千葉県知事）

●女性特有の健康問題に向き合う① 摂食障害への対応

鈴木眞理（政策研究大学院大学 保健管理センター）

●女性特有の健康問題に向き合う② 性差医療の必要性

天野恵子（一般財団法人野中東皓会 静風荘病院）

●女性特有の健康問題に向き合う③ 刑務所の中の母子保健

西田麻衣子（法務省矯正局総務課更生支援室）

●取材ルポ 栃木女子刑務所の現場から 編集部

●刑務所内の結核予防 保健所保健師へのヒアリングから示す現状と課題

川崎涼子（大分県立看護科学大学 広域看護学講座地域看護学研究室）

●薬物・アルコール依存対応 保健所・民間・定着支援センターとの連携

大西真由美（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科）

ひよこ、ポップ、ステップ、ジャンプ！ 長田菜摘さん（穴水町 健康推進課）

ピープル 三宅晶子さん（株式会社ヒューマン・コメディ代表取締役）

レポート 第77回日本公衆衛生学会

※変更になる場合がございますので、ご了承ください。

地域保健

平成30年11月号

平成30年11月1日発行／隔月（奇数月）1回1日発行

発行人 菅 国典

制作・発行 〒113-0021 東京都文京区本駒込2-29-22
株式会社 東京法規出版
振替 00160 - 1 - 371595

【購読の申し込み】

TEL 03 - 5977 - 0300

FAX 03 - 5977 - 0385

ウェブ www.chiiki-hoken.net

【内容の問い合わせ】

TEL 03-5977-0353

E-mail chiiki-hoken@tkhs.co.jp

◎表紙・本文デザイン＝新海妙子

◎印刷・製本＝（株）上野印刷所

◎編集長＝須賀健次

◎編集員＝松岡康子

本誌に掲載された著作物の
複写・転載等の許諾権は、
株式会社東京法規出版が保
有しています。

バックナンバー紹介

2017 年 9 月号

特集1「医療的ケア児を支援する」

医療的ケア児の抱える問題や国の施策について解説するほか、自治体の保健師の役割について事例を中心に紹介する。

特集2「乳幼児の予防接種へのサポート」

意外と受け忘れや誤接種が多いのが予防接種。啓発の重要性を説くとともに、自治体の取り組み事例を紹介。ロタウイルス感染症の最新情報も。

2017 年 11 月号

座談会「第三期の特定健診・保健指導に備える PART1」

直営で市町村国保の特定保健指導実施率の目標を達成した2市の保健師が出席。保健指導実施率を高めたと秘けつと今後の課題を聞く。

特集「多職種で取り組む災害時の食支援」

避難所で配られる食事は高齢者などには向いていないものも多くある。災害食支援の専門家が立場からアドバイス。

2018 年 1 月号

新春座談会1「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムに保健師はどう関わるか」

保健師の関わりを中心に、地域包括ケアの本来のあり方について、精神科医と保健師が意見を交わす。

新春座談会2「第三期の特定健診・保健指導に備える PART2 ～アウトソーシングに着目して～」

特定健診・保健指導でアウトソーシングにより効果を出すコツを話し合う。

2018 年 3 月号

特集「子どもの貧困と健康問題」

生活困窮家庭の子どもは虫歯や肥満など健康への悪影響が出ている。現状報告とともに対策に動き出した自治体の事例などを取り上げる。

2018 年 5 月号

特集「自殺総合対策を効果的に進めるために～自殺総合対策のポイントと実効性ある展開を目指して～」

自殺対策を効果的なものにするためのポイントと地域自殺対策推進センターの役割、既に自殺対策計画作成に着手している事例などを紹介する。

2018 年 7 月号

特集「母子保健と虐待予防の一体的な取り組みに向けて

～子育て世代包括支援センターと市区町村子ども家庭総合支援拠点～

子育て世代包括支援センターと支援拠点の整備状況および、それらの一体的な運営に向けて動き出した先進事例を紹介する。

2018 年 9 月号

特集「爆走するデータヘルス改革～2020年から始まるデータヘルス時代と保健師の仕事～」

2020年に本格稼働を目指すデータヘルス改革について解説。識者による「鼎談」では同改革が保健師の仕事に与える影響について展望する。

お申し込みは

(株) 東京法規出版 地域保健編集部
FAX : 03-5977-0385

※バックナンバーの価格
(2016年3月号まで) 925円(税込) + 送料 151円、
(2016年5月号から) 1,480円 + 送料 151円

『地域保健』購読のご案内

- 年6回、隔月〔奇数月〕1日発行
- B5判、総100頁(本文96頁、表紙4頁)
- 価 格 1冊あたり 1,480円(税込)、送料151円
- 年間購読 《公費前納および個人》7,990円(税込、送料弊社負担)
- 年間購読 《公費後納》8,878円(税込、送料弊社負担)
- ※書店の方は下記にお問い合わせください。

お申し込み

電話 03-5977-0300 FAX 03-5977-0385 ウェブ <http://www.tkhs.co.jp>



ホームページでの介護保険・在宅医療 の情報提供を見直してみませんか？

「かいごweb」をご利用ください！



豊富な情報量と便利な機能が充実した
市区町村介護情報サイト構築システム

介護

障害福祉

在宅医療

検索機能

利用したい分野を選んで必要情報を提供

※ご利用途中での掲載分野追加も可能です。

市区町村ウェブサイト、配布冊子でのQRコード
検索エンジンから
かんたんアクセス



- エリア内で利用できる介護サービス事業所を、受たいサービスとマップでかんたん検索
- 介護保険制度、保険料、健康と医療の情報も充実
- 認知症ケアパス・認知症対応医療機関も掲載
- サービス事業所情報・制度改正情報など基本情報は自動更新
- マルチデバイス対応でスマートフォンなどでもすっきり見やすく
- ふりがな機能や読みあげ機能などウェブアクセシビリティにも配慮
- 市区町村からの情報もワード感覚で編集できるコントロールパネルから簡単発信
- 利用者負担を軽減する広告表示機能も搭載



など



制度改正のたびにウェブサイトの更新をする手間が省ける！



資源マップの情報更新もかんたん操作で即時反映！



冊子では紹介しきれない詳細な情報提供もウェブなら掲載可能に



スマホやガラケーからいつでも知りたいことが確認でき、住民の利便性が向上



関係者間の低価格な在宅医療資源情報共有ツールとして

●インターネット上でお試しいただけるデモサイトをご用意しております



東京法規出版 ICT 事業企画室

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-29-22

TEL 03-5977-0350

URL <http://www.tkhs.co.jp/kaigoweb/>

詳しい資料を
ご希望の方は
お気軽にお問い合わせ
ください！



本システムを利用して、障害福祉サービスや子育て支援サービス等対応のウェブサイト構築のご相談も承っております

災害後も健やかな人生を送るための避難所づくりの要点がわかる！
避難所運営にかかわる自治体関係者、ボランティア団体、すべての人に役立つ必携本

いのちと健康を守る 避難所づくりを活かす 18の視点



好評発売中！

- | | |
|---------------|-------------|
| 1 ガイドライン | 10 段ボールベッド |
| 2 トイレ | 11 布団干し |
| 3 衛生 | 12 寒冷期 |
| 4 肺炎 | 13 人間関係 |
| 5 母子 | 14 食事 |
| 6 福祉避難所 | 15 集約と移動 |
| 7 エコノミークラス症候群 | 16 在宅被災者 |
| 8 弾性ストックング | 17 生活再建と法制度 |
| 9 テント | 18 海外の避難所 |

監修：新潟大学医歯学系呼吸循環外科 榎沢和彦

B5判／本文96頁／モノクロ 定価：本体1,500円＋税
ISSN 2424-0826 第49巻 第3号（別冊）

災害の巨大化の中で、
避難所のあり方が厳しく問われている。
本書は、避難環境の改善と、
被災者の自立に向けての
強いメッセージになるに違いない。

神戸大学名誉教授
室崎 益輝先生 推薦

【執筆者一覧】（掲載順）敬称略

榎沢 和彦	新潟大学	浦野 愛	レスキューストックヤード
室崎 益輝	神戸大学名誉教授	根本 昌宏	日本赤十字北海道大学
田村 圭子	新潟大学	菅原 由美	東北大学
加藤 篤	日本トイレ研究所	辻 一郎	東北大学
中臣 昌広	日本環境衛生センター	笠岡 (坪山) 宣代	国立健康・栄養研究所
中久木康一	東京医科歯科大学	植田 信策	石巻赤十字病院
吉田 穂波	神奈川県保健福祉局	山村 修	福井大学
奥田 博子	国立保健医療科学院	岡本 正	銀座パートナーズ法律事務所
山下 竜一	災害用弾性ストックング協会	北川 慶子	聖徳大学
草島 進一	オープンジャパン	塩崎 賢明	立命館大学
水谷 嘉浩	Jパックス株式会社	川村 匡由	武蔵野大学名誉教授

発行元：  東京法規出版 〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-29-22
TEL：03-5977-0300 FAX：03-5977-0311 <http://www.tkhs.co.jp>